

# 連帯による「持続可能なエネルギー教育」 ー地域と大学のローカルシンフォニーによるリサイクルからの展開ー

国立大学法人鹿児島大学大学院理工学研究科

小原 幸三

## 【活動地域】

インドネシア

## 【概要】

本事業では、鹿児島大学の社会貢献事業の一つである「地域と大学のローカルシンフォニー」事業における環境・エネルギー教育の成果をインドネシア・ジャカルタのデポック地区で活用し、インドネシア大学とデポック市民の連帯による ESD モデル(インドネシア ローカルシンフォニー)を創る。大学と地域が異なる知的な財産を持ちながら、地域からグローバルに貢献するためには、これまでのお互いの関係性をこえた取り組みが必要である。大学と地域が連帯して活動するローカルシンフォニーの取り組みを、国際協力のレベルに拡大し、グローバルな課題である環境・エネルギー分野への取り組みのESDモデルとしてアルミ缶、ペットボトルを活用して、自らの活動スペースとしてのラボステーションを作る。

## 【目標】

ESDモデルを実践・実証するための目標として

- 1) デポック市内に20箇所のラボステーションを建設するために小中高大学の連帯した活動組織を作り、ラボステーション建設のマニュアルを作成する。
- 2) ラボステーションの活動の持続性を保証するために4つの活動;①基礎回収活動、②分解・分析活動、③利用発展活動、④応用実践活動、を取り入れる。この活動の基礎として鹿児島県大崎町のリサイクル活動の事例を活用する。
- 3) 持続可能な発展を実現する支援活動を行う。地域内の活動には固有のアイデアと共通性がある。ラボステーションを地域のセンターとして、ラボステーション間の成果物の交換が、「廃棄物」活用の駆動力となる。本事業の成果物を理解し、地域で活用が起こることあるいは、連帯して活用を促進することが事業の持続性を保証する。そのために、多くの関係者に事業の趣旨を説明し、理解者を増やす活動を通して支援組織を強化する。

## 【体制】

モデル地区内の小中高と大学の教育連携と地域のボランティア組織が、推進母体となり、インドネシア大学が「インドネシアの地域と大学のローカルシンフォニー」の運営の中心となる。鹿児島グループは、廃棄物の分類・分解・分析のノウハウをインドネシア側に伝え、活用の技術支援やインドネシア固有の問題解決を支援する

## 【成果物】

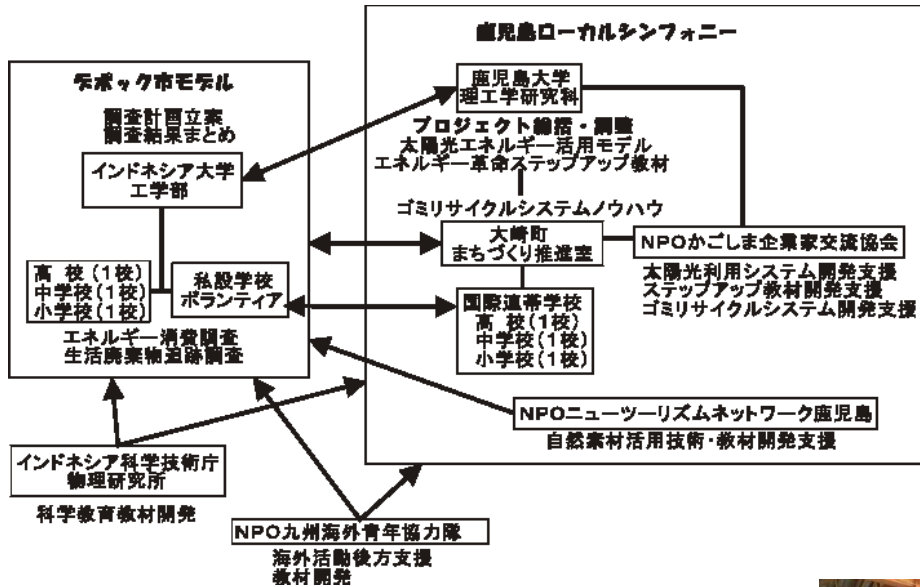
- 1) 期待する成果
  - ① 地域と大学の有機的な協力関係による持続可能な活動支援体制の構築
  - ② 廃棄物を活用するノウハウの蓄積と行政活動とリンクしたグローバルな廃棄物削減活動への接続
- 2) 成果物
  - ③ アルミ缶をシート状にして活用したラボステーション建設マニュアル
  - ④ アルミシートから発展した作品モデル集

# 連帯による「持続可能なエネルギー教育」

—地域と大学のローカルシンフォニーによるリサイクルからの展開—

国立大学法人鹿児島大学

◎持続可能性を阻害する廃棄物を「Change」して「Develop」するESD教育



リサイクル資源



Change



アルミシート化



屋根のパネル



20面体モデル

Develop!

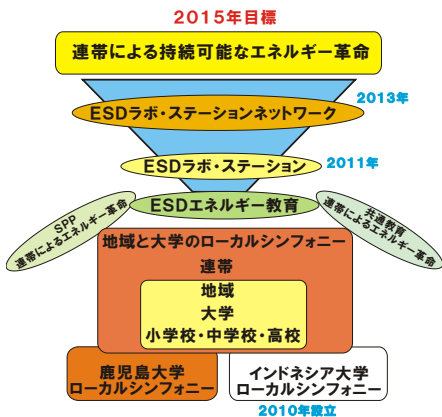


アルミトランクモデル



ラボステーション

Solidarity



連帯による持続可能なエネルギー教育  
概念図